

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 31日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530866

研究課題名（和文） 連想法を使った子どもの意識による授業評価の臨床研究

研究課題名（英文） Clinical assessment of moral education lessons using the association method

研究代表者

上 藺 恒太郎 (Kohtaro Kamizono)

長崎大学・教育学部・教授

研究者番号：50128005

研究成果の概要（和文）：

連想法は子どもの視野からのアセスメントを可能にする。そこでこの研究では、連想法を発展させ、出版し、道徳授業評価の技法としてまた学校経営のために使用した。結果として、自己肯定感を支えることが学校教育の主たる課題であることがわかり、自己肯定感を目的とした道徳授業を仕組み、評価をおこなった。この研究の成果としての書論文は、道徳授業によって自己肯定感を支えることが可能でありまた効果的であることを明らかにしている。抗して本研究は、子どもの意識を分析し、子どもから出発する臨床的な学校経営・コンサルティングに道を開くことになった。

研究成果の概要（英文）：

The association method provides a means of making an assessment from the point of view of children's own consciousness. Therefore, I have devised and published results obtained by this method for the purpose of furthering knowledge of moral education lessons, and as a tool for school management. Consequently, I have been able to highlight the central task of supporting the self-affirmative consciousness of children within the scope of responsibilities of education in general, and moral education in particular. Lessons based on these principles were organized and assessed. The papers included in this project reveal the clear effective potential of developing self-affirmative consciousness in the moral education classroom. In this way, this project has paved the way for a clinical means of school management based, from the outset, on the interpretation of the children's own conscience.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：連想法、臨床、授業評価、道徳、授業研究、子どもの意識

1. 研究開始当初の背景

子どもの自己肯定感の育成は、学校教育の基盤である。自己肯定感は、技能を支えるいわば体幹である。しかし日本において今日、子どもの自己肯定感は薄い。

提示語〈自分〉から子どもが何を思い起こすかを調べ、連想マップをつくると、子どもの意識状況が診断できる。すると、〈自分〉に否定的な言葉が回答語の種類として最も多く、そのなかでは「バカ」が最多であった。

自己肯定感の薄さを改善することは、学校教育全体の課題であるが、とくに道徳教育が取り組むべきである。学校教育の基本単位である授業をその基本において改善する学校経営への道を開くことが、本研究の主題である。本研究は、連想法による診断的連想マップを各学校において作成し、子どもの課題を見出して、臨床的に必要な道徳授業を組む支援をおこなう。

(道徳授業評価) 道徳授業について、連想調査を授業の前後におこない、授業による子どもの意識変容を確かめ、授業を評価する。

授業が子どもの意識においてどのような意味を持ったかを確認するアセスメントを積み重ね、学校コンサルティングへの道を開く。

そして、アジア諸国への発信を行う。中国、韓国にも道徳の時間があり、台湾でも連想法に関心が寄せられている。申請者は連想法について2007年5月広州 Sun Yat-Sen Universityで、また2008年7月 Seoul 国立大学で講演しており、アジア太平洋道徳教育ネットワーク学会 (APNME) 創立理事であるネットワークを活かし、アジアにおける道徳授業の広範な研究を進めたい。

2. 研究の目的

研究目的 (概要) ※ 当該研究計画の目的について、簡潔にまとめて記述してください。

本研究の主眼は、連想法による道徳授業評価(アセスメント)技法の確立による臨床研究にある。

連想法の新しさは連想と情報の結びつきにあり、言葉の想起を言語選択の確率として計算し、想起する言葉の変容によって授業評価をおこなう。連想法は集団としての子どもの意識をよく反映するところから、本研究は子どもの視点からおこなう授業評価・学校評価となる。2010年から3年間で、1. この技法を確立し連想法による評価実践例を積み重ねると共に、2. 各学校に赴いて授業実践を支援し、3. 学校コンサルティングと連携する。

本研究の方法である連想による授業評価は、世界でも独創的であり、学校教育臨床を

機能させるために有効な技法である。授業評価は、学校教育全体に位置づけられ、学校運営に反映されて意味がある。連想法による子どもの意識状態の診断、授業評価、学校評価の一連の流れは、道徳教育を要とする学校全体の運営とつながるべきである。

本研究では、1. 連想法の技法を臨床的に改良・確立し、2. 授業評価として実践例を積み重ね、3. これらをカリキュラムの質の保証ならびに学校教育コンサルティングに位置づける作業までをおこなう。本研究は、価値を教えてすませる道徳ではなく、臨床課題に応える道徳授業への道を切り開き、アセスメントに基づく学校運営に道を開く。

学校教育は、子どもを取り巻くさまざまな計画不可能なできごと、子どもの抱える課題に対応する必要がある。年間指導計画によって進められるカリキュラムは、非連続の子どもの課題を生かすことによって、子どもの必要に応え、子どもの意識に成果を残すことができる。すぐれた教員は子どもの課題に敏感に応えながら日々の授業をおこなっているが、授業での言葉のやりとりが子どもの意識全体に残す影響については、ベテラン教員の推察か作文程度しか簡便な評価技法がなかった。連想法は、以下の特色を持っており、子どもの視点からのアセスメントとして、すなわち子ども個人の評定ではなく、授業の波紋の評価として有効である。

- 1) (全体性) 連想法は、概念、思考、心情を含む全体を映し出す評価技法である。
- 2) (簡便性) 1語 50秒の連想時間を用い、通常の授業評価として5語程度を用いるところから、授業の前と後に5分程度の時間を割くことで評価データが得られ、連想処理プログラムによって処理が容易である。
- 3) (自立した教員) 授業者がデータ処理して、授業を反省的に見ることができ、教員の授業改善の道具として有効である。
- 4) (授業交換の道具) 授業を見ていない者でも、連想マップを見ることによって、授業を論議でき、教員の経験を相互に一般化するために有効な道具である。

本研究は連想法を使って、分野としては道徳教育に焦点をあてて、研究を進める。なかでも、1. 子どもの自己肯定感に、2. 価値項目としては生命尊重に焦点をあてて授業評価研究を進め、3. 授業素材として従来の読み物資料だけでなく、自作資料、映画、絵画などにまで範囲を広げ、授業素材としての有効性を確かめる。これは連想法という子どもの意識の評価技法によって初めて可能になる授業素材の有効性の評価である。

3. 研究の方法

本研究は、連想法を使って子どもの意識状況に応じて臨想的に、道徳授業実践を理論的にまた指導案作成から支援し、学校教育における実践によって理論研究を修正・構築し、海外事例を加えて、学校評価・授業評価として使える技法を確立する研究である。

1. 2010年度に連想ソフトを整備し、道徳授業実践の評価を自己肯定感、いのちの教育に絞って、また各学校の課題に応じておこなうほか、映画「ブタがいた教室」鑑賞による意識変容を調査し、道徳授業素材としての読み物資料以外の意味を確かめる。
2. 2011年度に連想法の使用について、海外を訪問して実例を吸収するほか、学校評価と道徳授業評価と連携した授業実践と評価をおこなう。
3. 2012年度に学校評価に基づく学校コンサルティングと結んだ道徳を軸とした授業評価の総合的実践をおこなうとともに、研究全体のまとめと公表をおこなう。

4. 研究成果

2010年度に次の成果を上げるとともに、2010年6月11-13日に、アジア太平洋道徳教育ネットワークの大会ならびに日本道徳教育方法学会を *Moral Education in Asia's Globalising Societies: Concepts and Practices* のテーマの下に開催し、日本、中華人民共和国、日本のシンポジストによっておこなった。

1. 福岡県大野城小学校の全校調査を実施し、道徳授業支援を行い、『研究まとめ』に連想法の結果を掲載した。そのほか、久留米市合川小学校での全校調査を行い、学校経営支援をおこなった。調査結果は、学校が子どもの自己肯定感育成を学校方針に掲げる根拠となり、また学校評価としても活用された。長崎大学教育学部附属小学校の初等教育研究発表会研究紀要第5集に掲載したように、授業方法として「手作り連想マップ」を使う方法の開発は、連想法の新たな活用として意義深かった。
2. 学会発表4件： *Assessment by association method of a moral education lesson in a mixed age class—towards a clinical moral education—*、(AME, St. Louis, アメリカ合衆国)
子どもが学び合う道徳授業への転換—自分の生き方を見つめて—、(日本道徳教育方法学会、長崎)
ラウンドテーブル：子どもが学び合う道徳授業への転換—自分の生き方を見つめて—、(招待、日本協同教育学会、山口)
体験活動の違いが生徒に及ぼした影響についての連想法及びアンケート調査による考察 (日本道徳教育方法学会、長崎)
3. 論文4本：映画「ブタがいた教室」を生

月島の観客はどう受け止めたか—連想法による意識評価—、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要第10号、2011

Comparison of Consciousness by Language choice—A pilot study by association method、長崎大学教育学部紀要—人文科学—No.77、2011

映画「ブタがいた教室」による観客の意識変容、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第75号、2011

子どもが学び合う道徳授業への転換—自分の生き方を見つめて—、道徳教育方法研究第16号、2011

4. 台湾の2つの小学校において道徳授業ならびに授業研究会を行い、二つの大学で講演をおこなった。

2011年度には、以下の成果を上げると共に、日本道徳教育学会第77回大会を「グローバル化するアジア社会における道徳教育：理念と実践」のテーマの下に開催した。実践に焦点をあて、台湾と日本での道徳授業実践を中心に論議した。

1. 全校連想調査を久留米市立合川小学校、長崎市立出津小学校で実施し、学校運営と授業改善の資料とした。また長崎大学教育学部附属小学校において全国に向けた公開の道徳授業をおこない、連想調査を実施して、授業評価のあり方について指導助言を行った。この成果は長崎大学教育学部附属小学校学習研究会編『知の獲得を保証する学びのスタイル—文化の創造者の育成に向けて—』に記載された。
2. 連想法の講演ならびに調査を台湾で実施：台湾中正大学および小学校における講演。また興中国国民小学ならびに香林国民小学において国際統一学習案による道徳授業をおこない、連想法による道徳授業評価を実施した。
3. 学会発表4件：「An international study on a life education lesson in two elementary schools in Taiwan and Japan」Association for Moral Education(南京、中国)。「協同で学ぶ思いやり」日本協同教育学会第8回大会(千葉)。「民話による道徳授業」日本道徳教育学会第77回大会(長崎)。「映画と結んだ命と食の道徳授業」日本道徳教育学会第77回大会(長崎)。
4. 発表論文2本：「グローバル化と国際共同道徳学習案の意義—台湾と日本のいのちの支え合い—」長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要第11号、pp.83~97。
「Assessment by Association Method of a Moral Education Lesson on a Local Topic in a Mixed-age Class」長崎大学教育学部紀要—教育科学—第76号、pp.1~16
5. 著書『連想法による道徳授業評価—教

育臨床の技法―』を教育出版から、東日本大震災による印刷遅れのため年度がずれて2011年4月に発行された。

2012年度には以下の成果をあげた。

1. 全校連想調査を久留米市立城島小学校、で実施し、学校運営と授業改善の資料とした。また長崎大学教育学部附属小学校において全国に向けた公開の道徳授業をおこない、連想調査を実施して、授業評価のあり方について指導助言を行った。
 2. 学会発表: 2件。Moral education through an international lesson plan between Japan and Taiwan—mutual support for life—, (APNME, 台湾)。
Clinical Moral Education enlightening Diverse Consciousness Between Children in Japan and Taiwan by means of an International Lesson Plan, (AME, San Antonio, アメリカ合衆国)
 3. 発表論文 3本: 台湾の3小学校における日本の道徳授業—連想法による授業分析—、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要、第12号、pp.61~70、2013。
自己肯定感を育てる道徳授業—協同で学ぶ思いやり—、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第77号、pp.1~18、2013
グループを活用した1単位時間の自己肯定感の変容—連想法による授業評価—、協同と教育、第9号、(予定) 2013
 4. 上廣倫理財団支援による「心の教育研究会」「道徳授業の充実をめざして」を長崎で開催し、道徳授業のあり方について現職教員を中心に質疑応答をおこなった。
 5. 台湾を訪問し、3つの小学校で道徳授業と授業研究会をおこない、2つの大学で講演をおこなった。また中華人民共和国遼寧省瀋陽に2つの小学校を訪問し、民間交流として授業交流をおこなうことを確認した。
5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

1. 上藺恒太郎、映画「ブタがいた教室」を生月島の観客はどう受け止めたか—連想法による意識評価—、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要第10号、pp.9~25、2011
2. Tony Brown, Kohtaro Kamizono, Comparison of Consciousness by Language Choice - A pilot study by association method、長崎大学教育学部紀要—人文科学—No.77、pp.37~44、2011
3. 上藺恒太郎、映画「ブタがいた教室」による観客の意識変容、長崎大学教育学部

- 紀要—教育科学—第75号、pp.1~9、2011
4. 上藺恒太郎、森永謙二、中原聡、辻千里、子どもが学び合う道徳授業への転換—自分の生き方を見つめて—、道徳教育方法研究第16号、pp.54-64、2011
 5. 上藺恒太郎、長田誠、一瀬利朗、賀南、蒲池文恵、グローバル化と国際共同道徳学習案の意義—台湾と日本のいのちの支え合い—、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要第11号、pp.83~97、2012
 6. Kohtaro Kamizono, Kenji Morinaga, Assessment by Association Method of a Moral Education Lesson on a Local Topic in a Mixed-age Class、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第76号、pp.1~16、2012
 7. 上藺恒太郎、陳延興、一瀬利朗、載伸峰、台湾の3小学校における日本の道徳授業—連想法による授業分析—、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要、第12号、pp.61~70、2013。
 8. 上藺恒太郎、森永謙二、自己肯定感を育てる道徳授業—協同で学ぶ思いやり—、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第77号、pp.1~18、2013
 9. 森永謙二、上藺恒太郎、九重真由美、古賀佳緒里、グループを活用した1単位時間の自己肯定感の変容—連想法による授業評価—、協同と教育、第9号、(予定) 2013

[学会発表] (計10件)

1. Kohtaro Kamizono, Kenji Morinaga, Assessment by association method of a moral education lesson in a mixed age class — towards a clinical moral education —, (Association for Moral Education, St. Louis, アメリカ合衆国)、2010
2. 上藺恒太郎、森永謙二、子どもが学び合う道徳授業への転換—自分の生き方を見つめて—、(日本道徳教育方法学会、長崎)、2010
3. ラウンドテーブル: 森永謙二、上藺恒太郎、子どもが学び合う道徳授業への転換—自分の生き方を見つめて—、(招待、日本協同教育学会、山口)、2010
4. 南波聡、上藺恒太郎、体験活動の違いが生徒に及ぼした影響についての連想法及びアンケート調査による考察 (日本道徳教育方法学会、長崎)、2010
5. Yen-Hsin CHEN, Kohtaro KAMIZONO, An international study on a life education lesson in two elementary schools in Taiwan and Japan, (AME、南京、中国)、2011
6. 森永謙二、上藺恒太郎、九重真由美、古賀佳緒里、協同で学ぶ思いやり、日本協同教育学会第8回大会 (千葉)、2011
7. 森永謙二、上藺恒太郎、古賀佳緒里、九

- 重真由美、民話による道徳授業、日本道徳教育学会第77回大会（長崎）、2011
8. 上蘭恒太郎、山中太、映画と結んだ命と食の道徳授業、日本道徳教育学会第77回大会（長崎）、2011
9. Kohtaro Kamizono, Yen-Hsin Chen, Makoto Nagata, Ping-Liang Peng, Yu-Sheng Chang, Kanji Uechi, Moral education through an international lesson plan between Japan and Taiwan-mutual support for life-, (APNME, 台湾)、2012
10. Kohtaro Kamizono, Yen-Hsin Chen, Kanji Uechi, Makoto Nagata, Clinical Moral Education enlightening Diverse Consciousness Between Children in Japan and Taiwan by means of an International Lesson Plan, (AME, San Antonio, アメリカ合衆国)、2012

〔図書〕（計1件）

上蘭恒太郎『連想法による道徳授業評価 — 教育臨床の技法—』教育出版、2011

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

上蘭 恒太郎 (1)

研究者番号：50128005

(2)研究分担者

(なし)

研究者番号：

(3)連携研究者

(なし)

研究者番号：